

腸管出血性大腸菌感染症 (O157など) に注意が必要です



県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	→ 0	0	百日咳	↓ 0	1
RSウイルス感染症	↓ 6	7	ヘルパンギーナ	↑ 204	170
咽頭結膜熱	↓ 14	21	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	↑ 108	89
A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	→ 91	91	急性出血性結膜炎	↓ 0	1
感染性胃腸炎	↓ 331	376	流行性角結膜炎 (はやり目)	↓ 9	11
水痘	↑ 9	8	細菌性髄膜炎	↑ 1	0
手足口病	↓ 25	40	無菌性髄膜炎	↑ 6	3
伝染性紅斑 (りんご病)	↓ 16	19	マイコプラズマ肺炎	→ 11	11
突発性発疹	↑ 42	40	クラミジア肺炎	→ 0	0
			感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	↓ 0	2

報告が多い
感染症

- 感染性胃腸炎
- ヘルパンギーナ
- 流行性耳下腺炎

大きな流行が発生又は継続しつつある地域

- 伝染性紅斑 : 山鹿、宇城
- ヘルパンギーナ : 菊池、宇城、天草
- 流行性耳下腺炎 : 八代

◆◆◆保健所別発生状況 (インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発疹	百日咳	ヘルパ ンギーナ	流行性 耳下腺炎	急性 出血性 結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミ ジア肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)
1 熊本市保健所	0	1	4	45	71	2	2	1	10	0	65	28	0	7	1	6	3	0	0
2 山鹿保健所	0	0	0	0	24	0	2	5	3	0	3	9	0	0	0	0	0	0	0
3 菊池保健所	0	5	5	9	87	5	7	2	9	0	46	17	0	1	0	0	0	0	0
4 阿蘇保健所	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
5 御船保健所	0	0	0	7	16	0	3	0	0	0	6	2	0	0	0	0	0	0	0
6 八代保健所	0	0	0	0	23	0	1	0	1	0	20	23	0	0	0	0	1	0	0
7 水俣保健所	0	0	0	1	0	0	1	0	2	0	0	2	0	0	0	0	6	0	0
8 人吉保健所	0	0	0	7	4	0	2	0	3	0	10	2	0	0	0	0	0	0	0
9 有明保健所	0	0	4	4	55	1	2	0	8	0	8	8	0	1	0	0	0	0	0
10 宇城保健所	0	0	0	16	20	1	1	8	3	0	24	9	0	0	0	0	0	0	0
11 天草保健所	0	0	1	2	20	0	4	0	3	0	22	8	0	0	0	0	0	0	0
計	0	6	14	91	331	9	25	16	42	0	204	108	0	9	1	6	11	0	0

◆◆◆年齢別発生状況 (インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点年齢区分	合計	0-5 カ月	6-11 カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上	
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小児科定点年齢区分	合計	0-5 カ月	6-11 カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20歳以上							
RSウイルス感染症	6	0	1	1	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
咽頭結膜熱	14	0	3	9	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0							
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	91	0	1	5	7	8	17	13	10	11	3	7	9	0	0							
感染性胃腸炎	331	2	15	47	49	29	33	22	14	18	12	17	36	2	35							
水痘	9	0	1	2	0	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0							
手足口病	25	1	1	7	7	4	2	1	0	0	0	1	1	0	0							
伝染性紅斑	16	0	1	0	1	3	3	3	1	1	0	0	2	0	1							
突発性発疹	42	0	21	16	2	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0							
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0							
ヘルパンギーナ	204	3	27	84	36	22	15	7	4	1	0	4	0	1								
流行性耳下腺炎	108	0	0	4	10	17	19	26	8	8	6	6	2	0	2							
眼科定点年齢区分	合計	0-5 カ月	6-11 カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
流行性角結膜炎	9	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	3	0	0	1	2		
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上					
細菌性髄膜炎	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
無菌性髄膜炎	6	0	0	0	4	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0						
マイコプラズマ肺炎	11	0	2	5	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1						
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						

予防のポイント

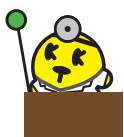
~食中毒予防のために~

- ①調理の時には、こまめに手を洗いましょう。特に、生肉を扱った手はすぐに石鹸で洗いましょう。
- ②お肉は生で食べないようにし、必ずよく加熱してから食べましょう。
- ③お肉を焼くときの取り箸は食べるお箸とは別にして、口に入れないようにしましょう。
- ④生の肉を扱った調理器具は、洗って熱湯をかけたのち、別の調理に使うことが大切です。

~ヒトからヒトへの感染予防のために~

- ①トイレの後や食事の前には石鹸と流水で十分に手を洗いましょう
- ②患者さんのお世話をする方は、使い捨て手袋を使うなどして下痢便に直接触れないようにしてください。
- ③下痢症状のあるときはプールの使用は控えましょう。

腸管出血性大腸菌感染症 (O157, O26, O111など) に注意が必要です



腸管出血性大腸菌感染症の報告が続いています。腸管出血性大腸菌感染症は例年、夏季に多く発生しますが、集団発生を抑えることが全体の患者数を抑えることに繋がります。予防のポイントを確実に行って、腸管出血性大腸菌の感染を予防し、この夏を楽しく元気に過ごしましょう。



KKT医療ナビ!

Dr.テレビたん

KKT 医療ナビ! Dr. テレビたん

<http://www.dr-tvtan.jp/>

情報提供: 熊本県健康福祉部 健康危機管理課